2013 年度研究科アンケートの結果について

集計結果

１．成果・肯定的評価

(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。

「とてもためになった」51（44.7%）　「まあまあためになった」58（50.9%）

「あまりためにならなかった」5（4.4%）　「ほとんどためにならなかった」0（0.0%）

(15) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

「とても高まった」43（37.7%）　「少し高まった」34（29.8%）

「変わらない」27（23.7%）　「あまり高まらなかった」6（5.3%）

「ほとんど高まらなかった」4（3.5%）

※95%以上の院生が、自分のためになったと肯定的に評価しており、教職大学院での学びに対して肯定的にとらえている。

67.5%の院生が教職についての意欲を高めている。特に現職院生の半数がとても高まったと回答しており、成果が上がっていると言える。「変わらない」という院生も 20%以上もおり、高まっていないという院生も約 8%と多くはないが、教職大学院教育を進めていくうえで看過できない実態がある。そうした院生にどのように向き合っていくべきか検討していく必要がある。

２．課題・否定的評価

(12)-1 教室の設備は適切でしたか。

「適切だった」7（6.1%）　「まあまあ適切だった」61（53.5%）

「あまり適切ではなかった」40（35.1%）　「全く適切ではなかった」6（5.3%）

(12)-2 院生室の設備は適切でしたか。

「適切だった」16（14.0%）　「まあまあ適切だった」48（42.1%）

「あまり適切ではなかった」42（36.8%）　「全く適切ではなかった」7（6.1%）

(12)-3 大学の設備は適切でしたか。

「適切だった」7（6.1%）　「まあまあ適切だった」54（47.4%）

「あまり適切ではなかった」45（39.5%）　「全く適切ではなかった」8（7.0%）

(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。

「適切だった」5（4.4%）　「まあまあ適切だった」57（50.0%）

「あまり適切ではなかった」44（38.6%）　「全く適切ではなかった」7（6.1%）

※施設、設備に対する不満がかなりある。特に学部新卒院生にその傾向が強い。大学当局への要望をしながらも、研究科としてできることから改善を常に図っていく必要がある。自習室のコンピューターは。一部更新を行うことができた。次年度中に全面的に更新する計画である。

時間割編成については、次年度の新カリキュラムにおいて、学年配当を見直すなど、院生の意見を踏まえながら、改善を図った。

いずれも院生・教員連絡協議会においても意見交換を行ってきており、一定、院生の理解を得られるようになっていると感じている。今後もさらに努力していきたい。

３．カリキュラムについて

(3) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

「期待以上だった」12（10.5%）　「まあまあ期待通りだった」72（63.2%）

「少し期待はずれだった」26（22.8%）　「全く期待はずれだった」3（2.6%）

(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

「とてもそう思う」10（8.8%）　「ややそう思う」70（61.4%）

「あまりそう思わない」32（28.1%）　「まったくそう思わない」1（0.9%）

(7) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。

「とてもそう思う」26（22.8%）　「ややそう思う」75（65.8%）

「あまりそう思わない」12（10.5%）　「まったくそう思わない」0（0%）

※授業内容について、少し期待はずれだったという回答がやや目立つ。昨年度は 0 だった全く期待外れだったという回答が 3 名あった。期待に応えられていないのはどういった点なのか、検討する必要はある。

新人教員の養成、スクールリーダーの養成にとってふさわしいものになっているかどうかについて、あまりそう思わないという回答がやや多くなっている。特に学部新卒院生にその傾向が強い。授業内容への期待に応えられていないことと合わせて、検討していくことが必要である。新カリキュラムによってその課題が克服できるかどうか、次年度の課題である。

４．院生への支援体制について

(8) 履修指導は適切でしたか。

「適切だった」26（22.8%）　「まあまあ適切だった」60（52.6%）

「あまり適切ではなかった」21（18.4%）　「全く適切ではなかった」5（4.4%）

(9) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。

「適切だった」18（15.8%）　「まあまあ適切だった」59（51.8%）

「あまり適切ではなかった」23（20.2%）　「全く適切ではなかった」1（0.9%）

(10) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。

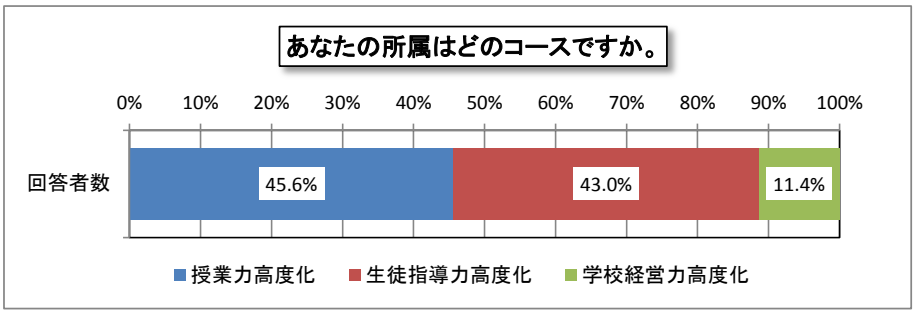
「適切だった」29（25.4%）　「まあまあ適切だった」49（43.0%）

「あまり適切ではなかった」21（18.4%）　「全く適切ではなかった」4（3.5%）

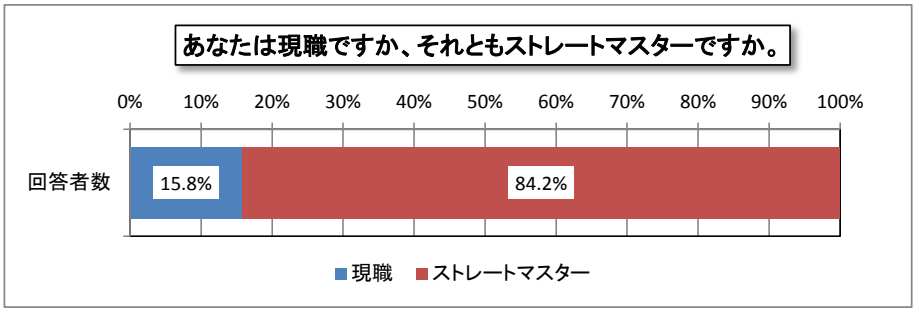
※おおむね肯定的に評価されているが、いずれもほぼ同じ人数の院生が否定的に評価しており、改善を図る余地はあると思われる。特に履修指導、実習支援体制について、全く適切でなかったと回答している院生が数名いることは重く受け止めることが必要である。ていねいな支援を行う必要がある。

2013年度連合教職実践研究科アンケート（全体）

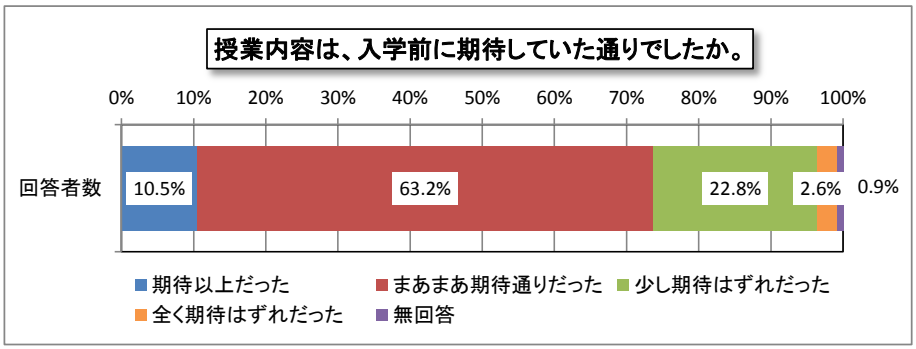
(1) あなたの所属はどのコースですか。



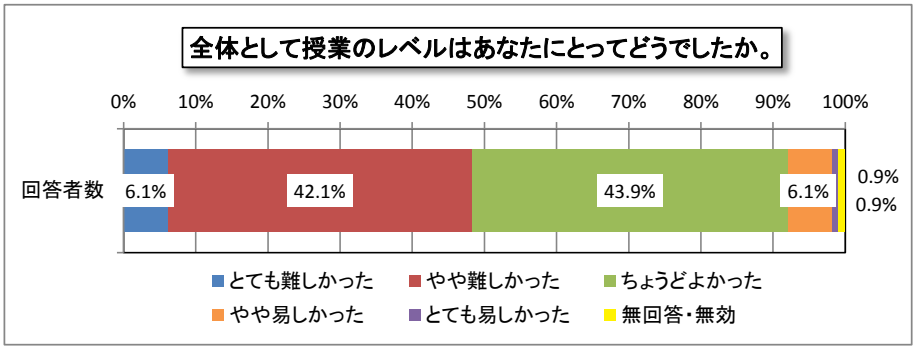
(2) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



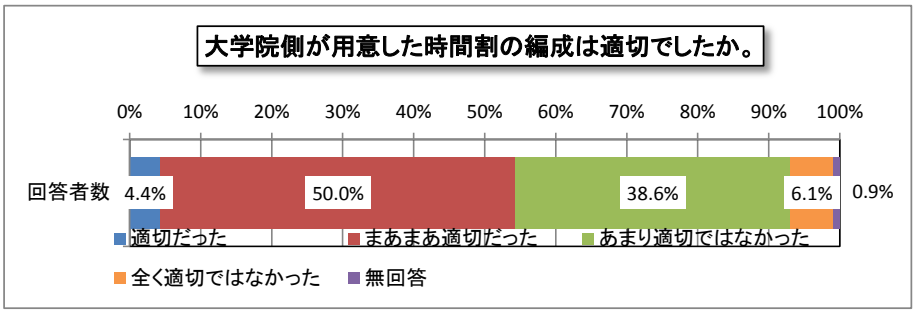
(3) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



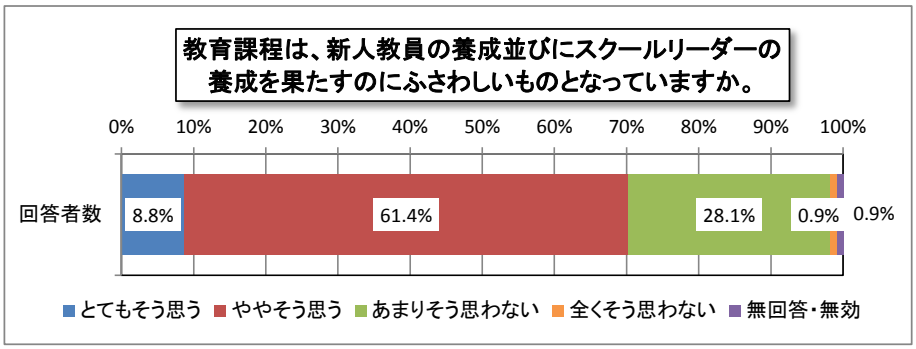
(4) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



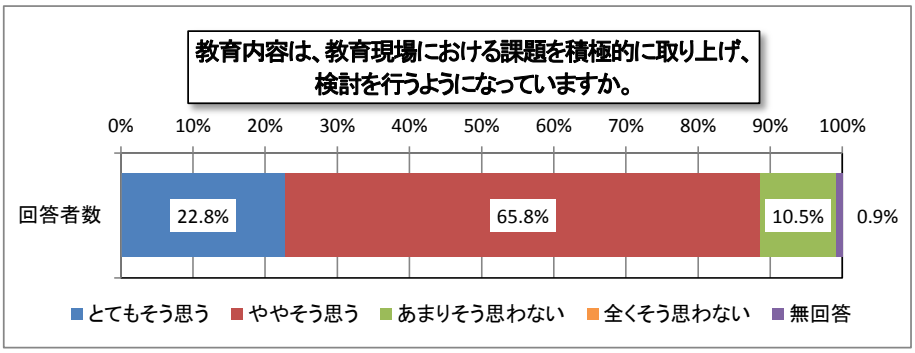
(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



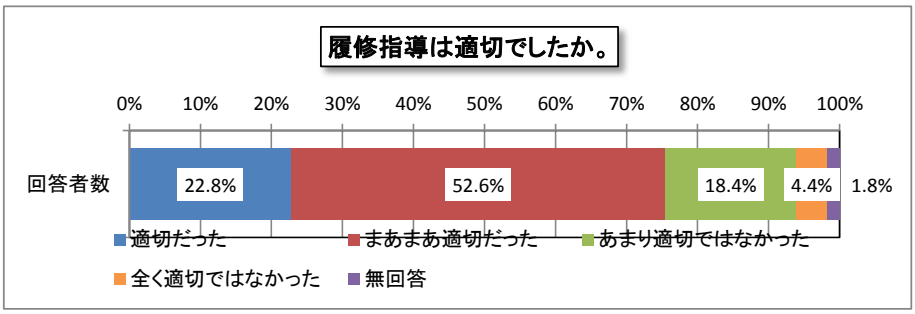
(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



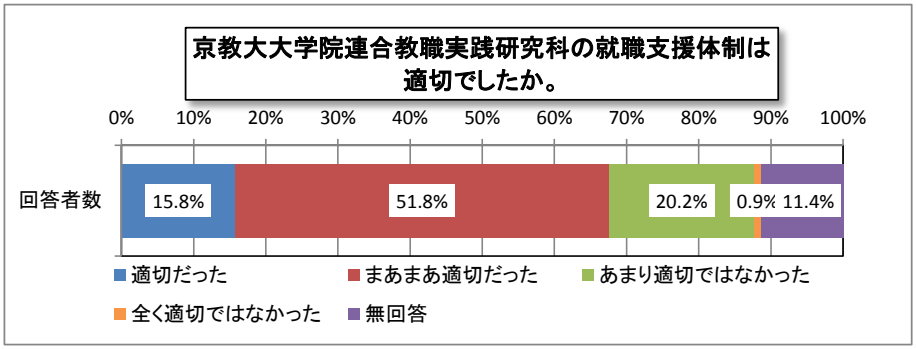
(7) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



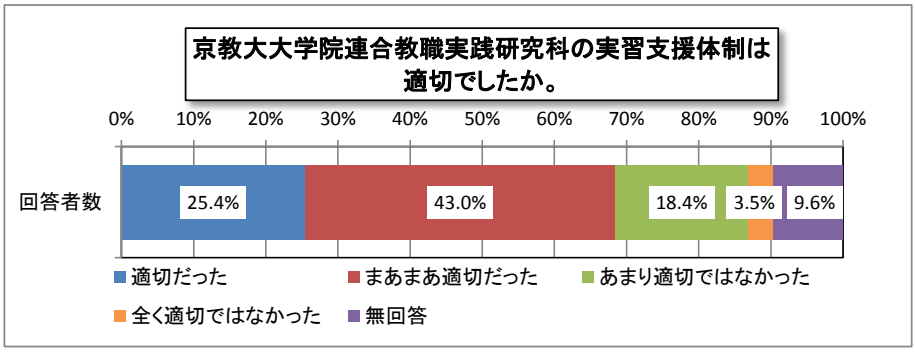
(8) 履修指導は適切でしたか。



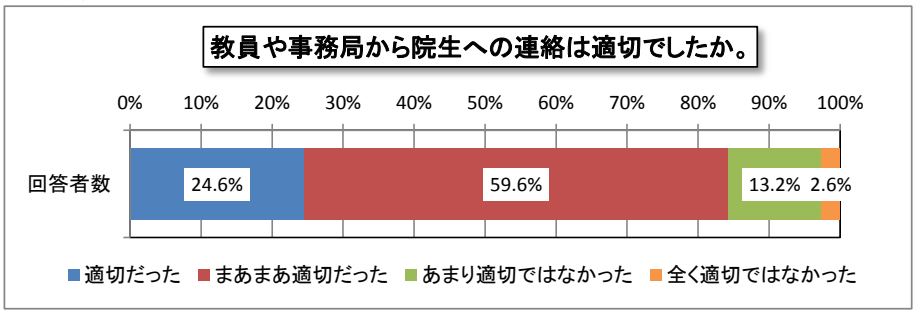
(9) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。



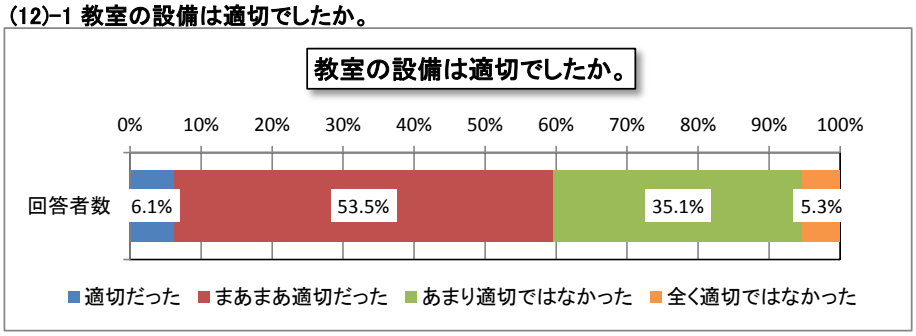
(10) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。



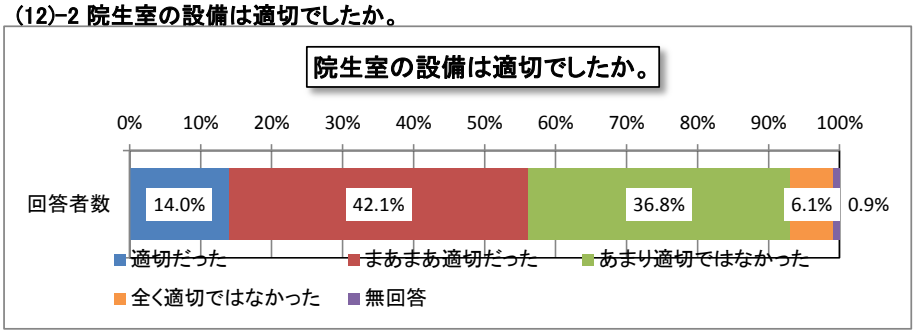
(11) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



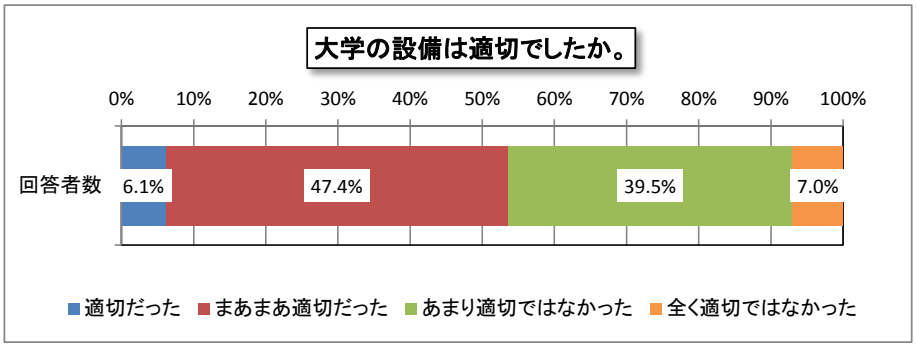
(12)-1 教室の設備は適切でしたか。



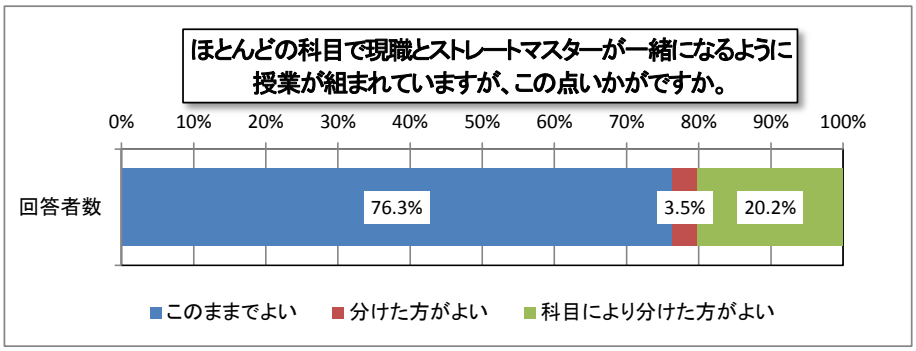
(12)-2 院生室の設備は適切でしたか。



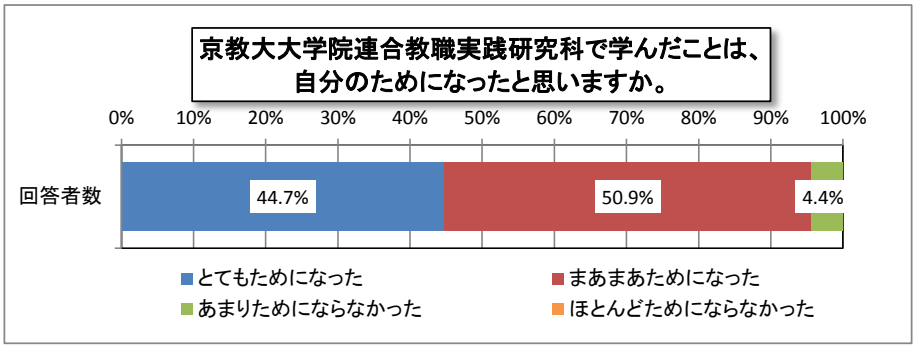
(12)-3 大学の設備は適切でしたか。



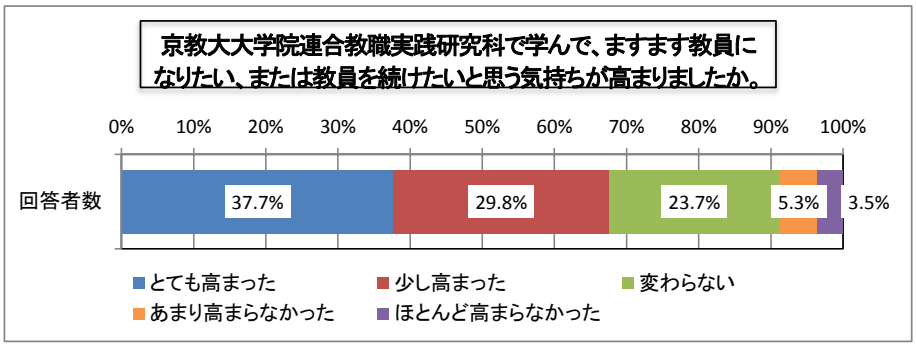
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科では、ほとんどの科目で現職とストレートマスターが一緒になるように授業が組まれていますが、この点いかがですか。



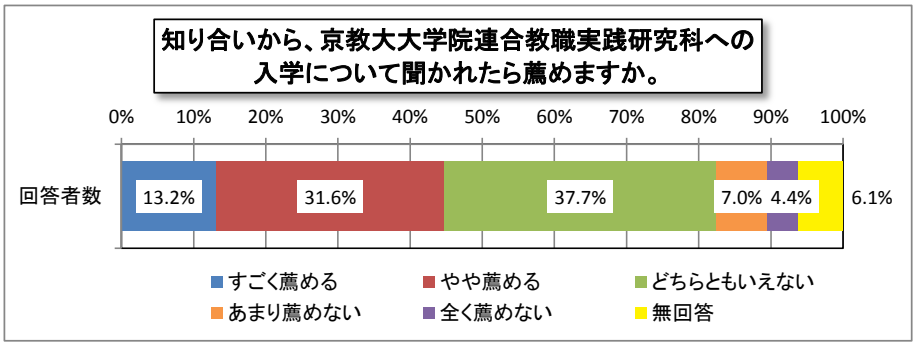
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(15) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

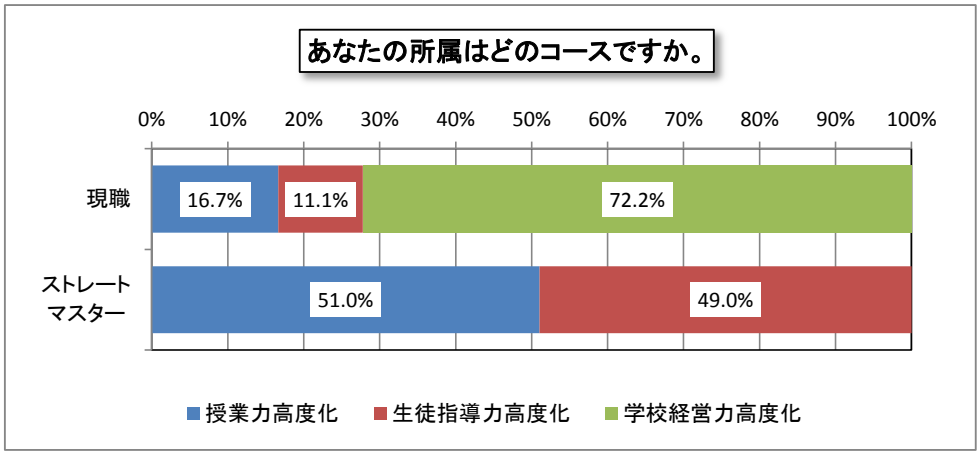


(16) 知り合い（後輩や職場の同僚等）から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

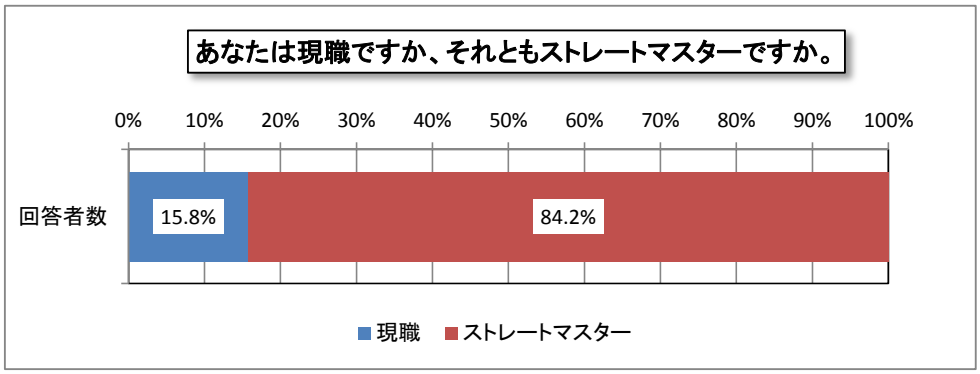


2013年度連合教職実践研究科アンケート（現職・ストレートマスター別）

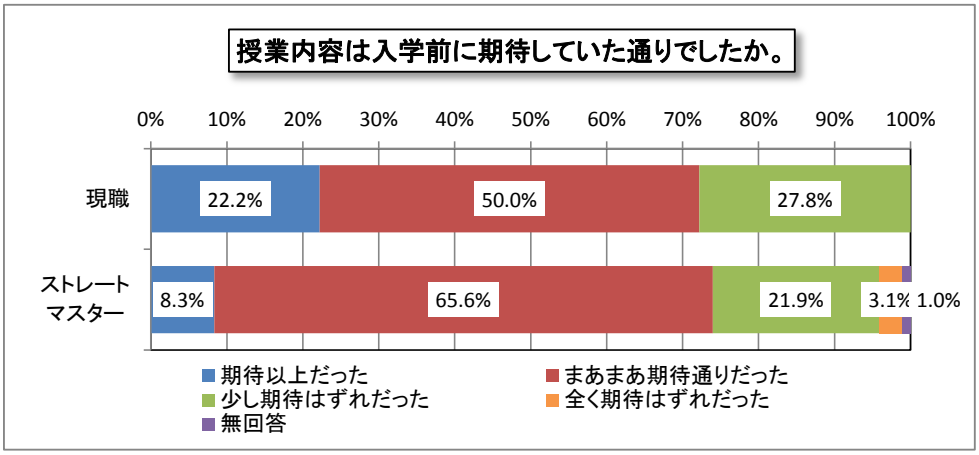
(1) あなたの所属はどのコースですか。



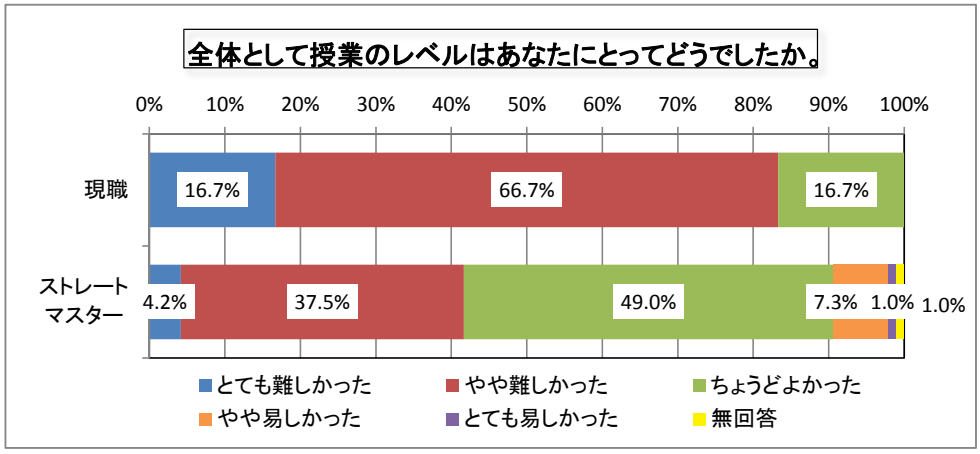
(2) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



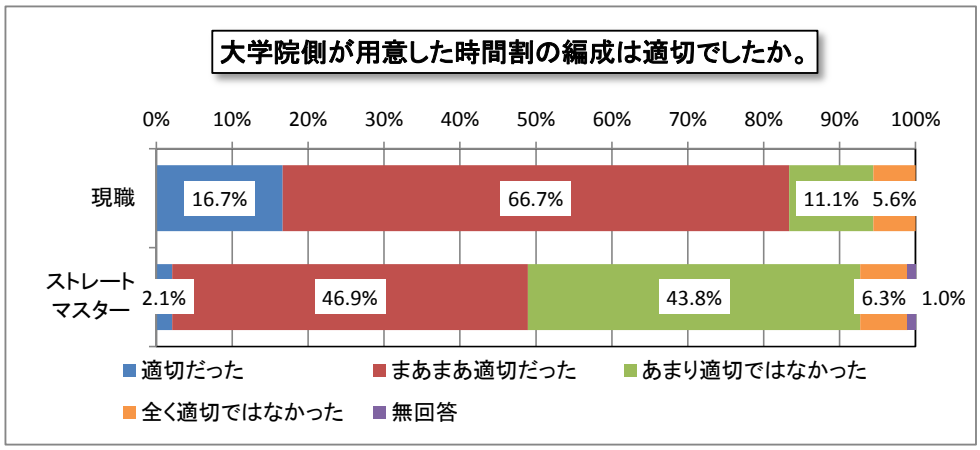
(3) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



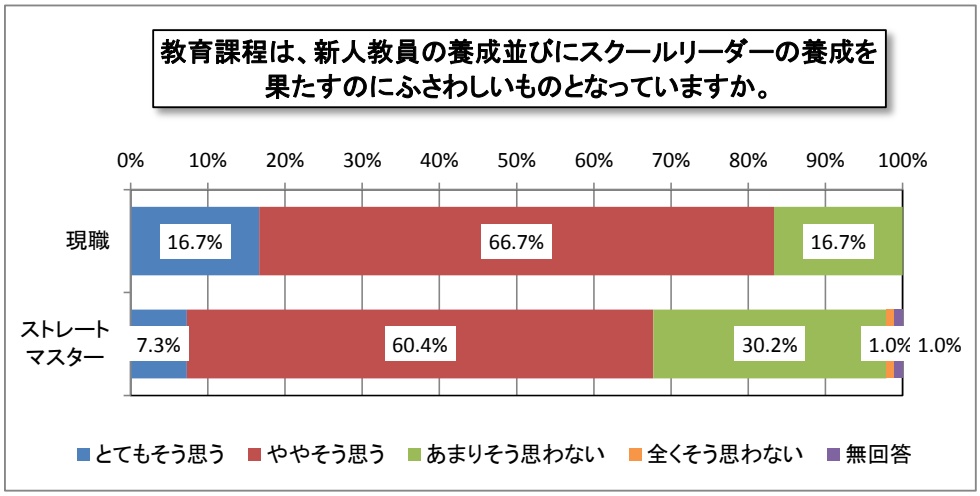
(4) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



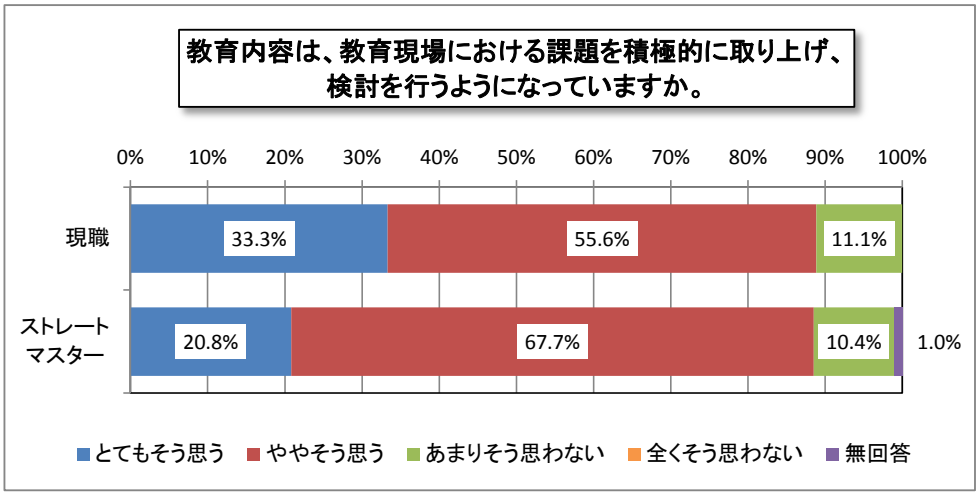
(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



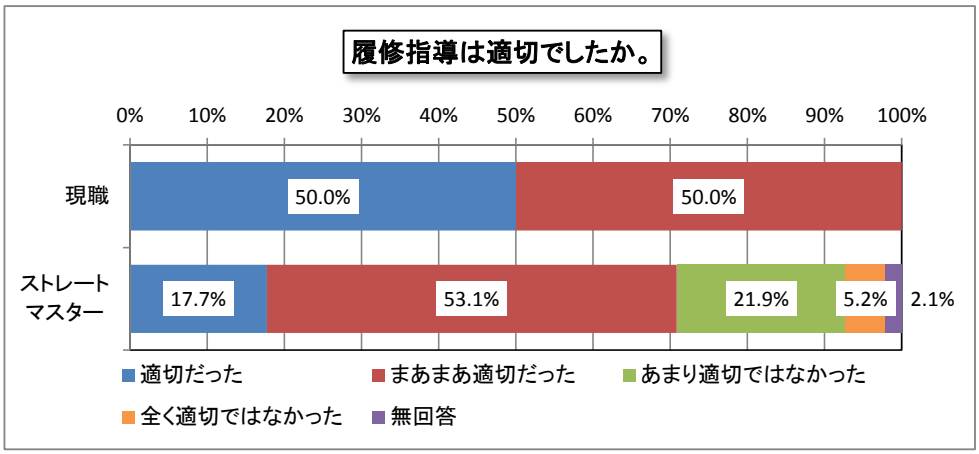
(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



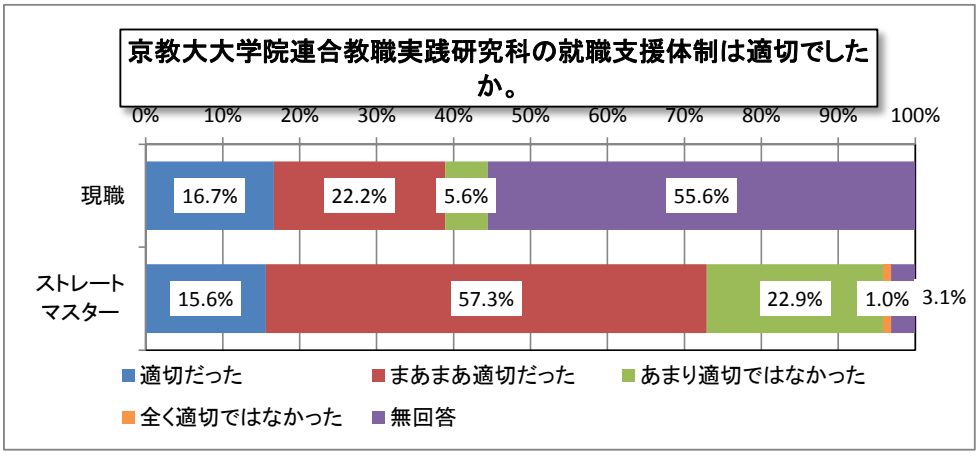
(7) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



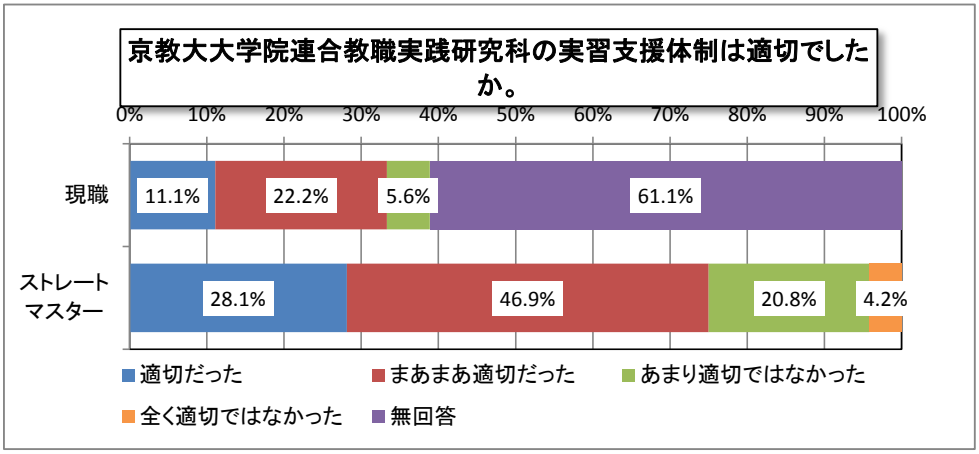
(8) 履修指導は適切でしたか。



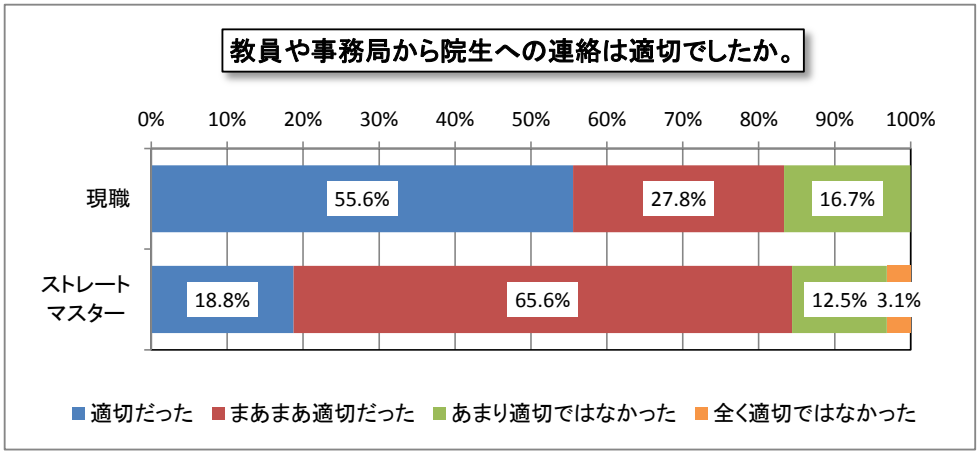
(9) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。



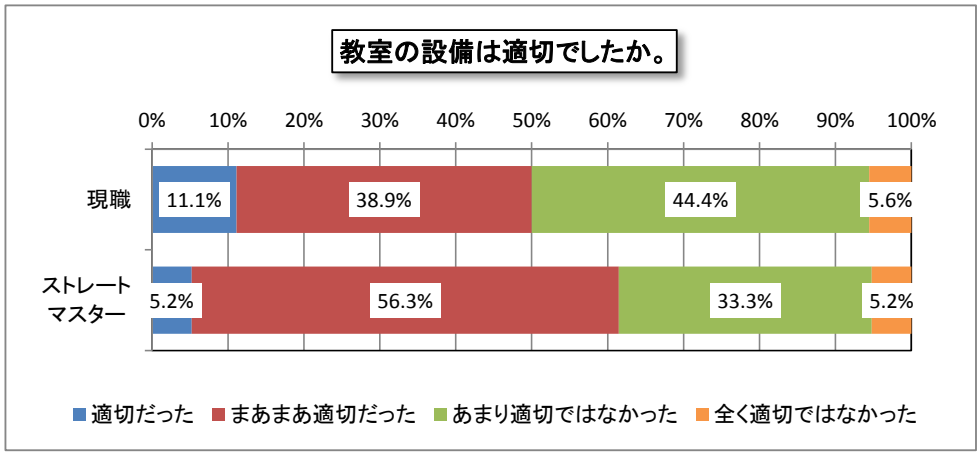
(10) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。



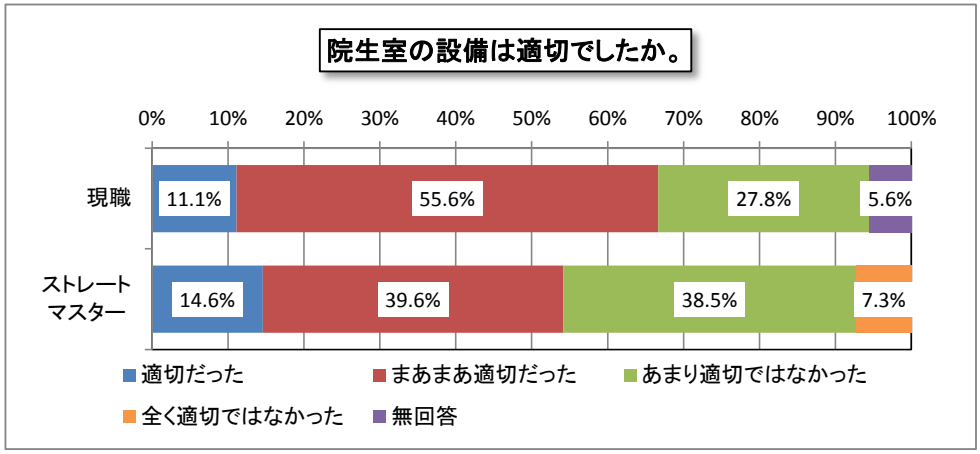
(11) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



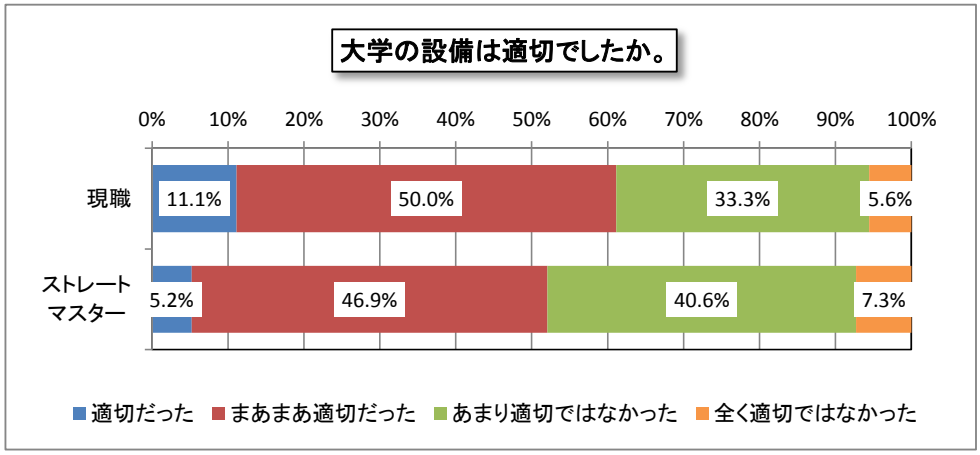
(12)-1 教室の設備は適切でしたか。



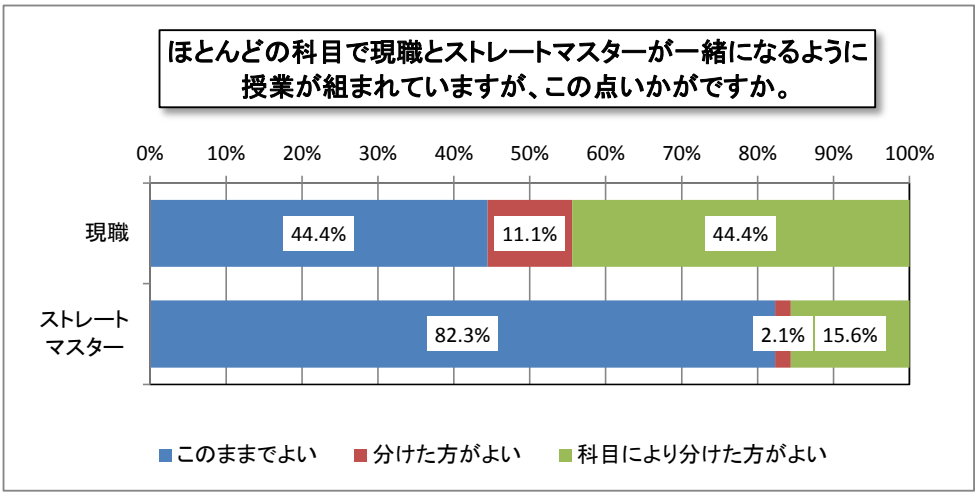
(12)-2 院生室の設備は適切でしたか。



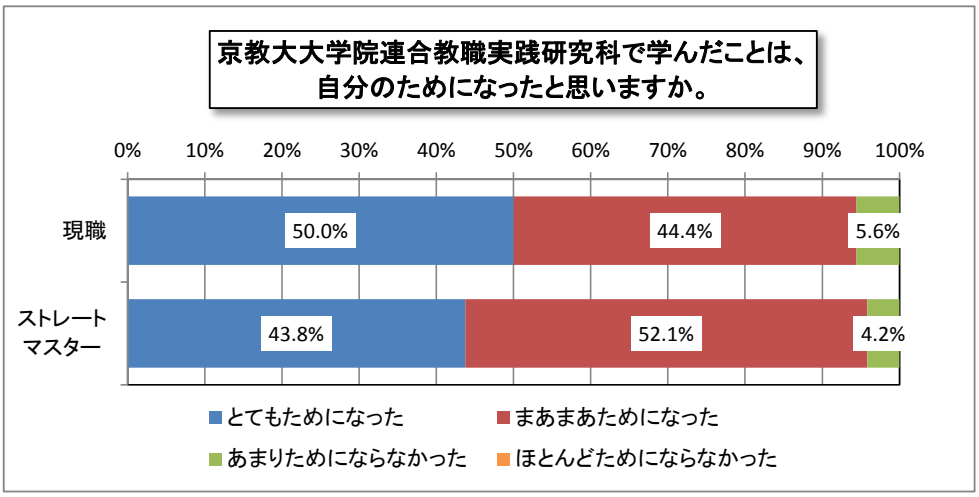
(12)-3 大学の設備は適切でしたか。



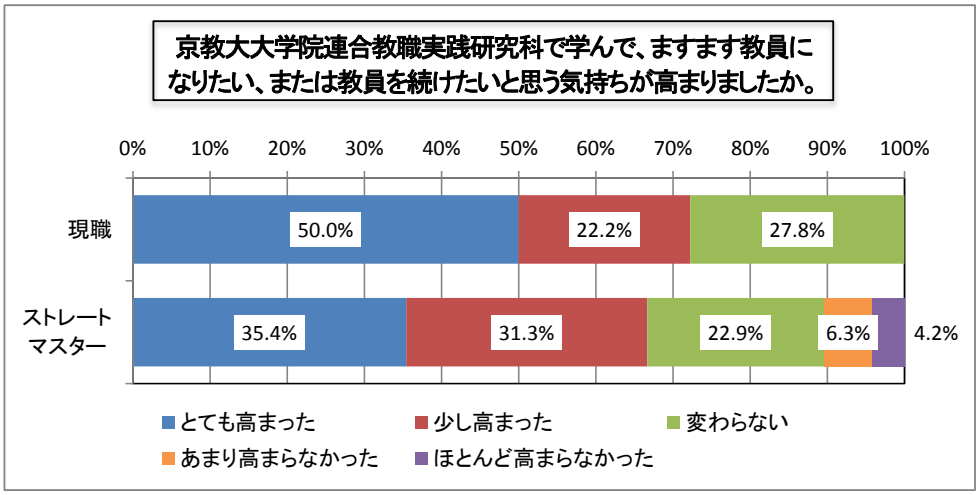
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科では、ほとんどの科目で現職とストレートマスターが一緒になるように授業が組まれていますが、この点いかがですか。



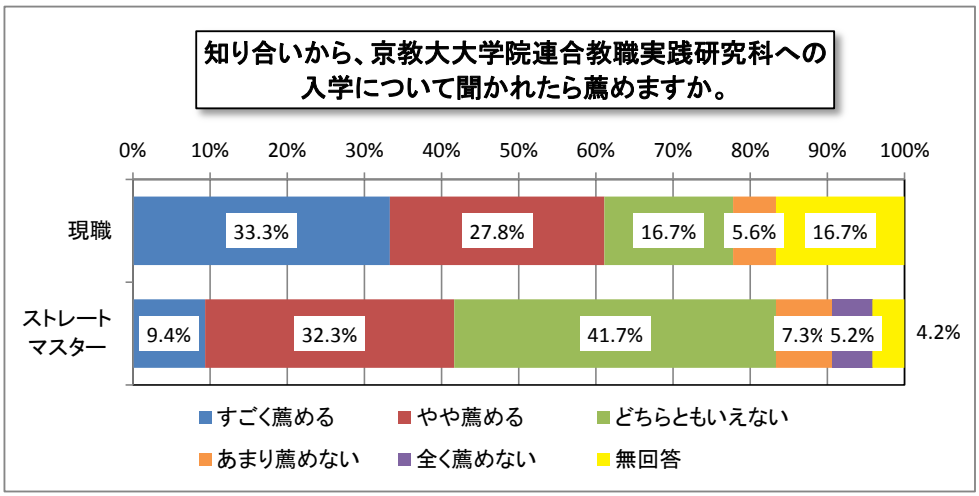
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(15) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

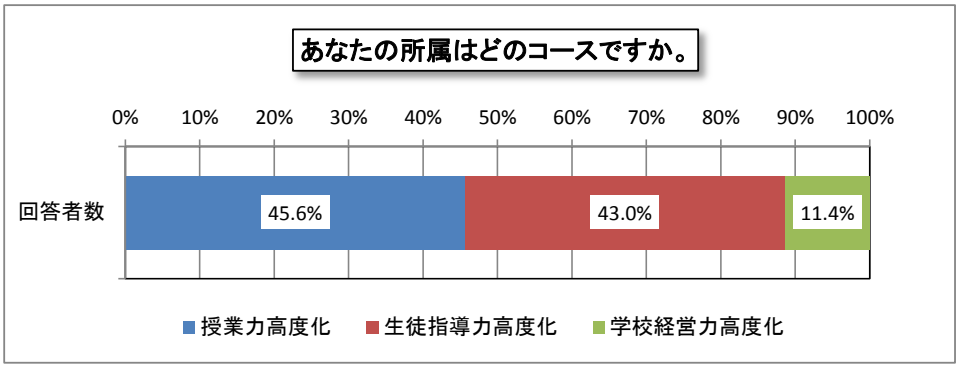


(16) 知り合い（後輩や職場の同僚等）から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

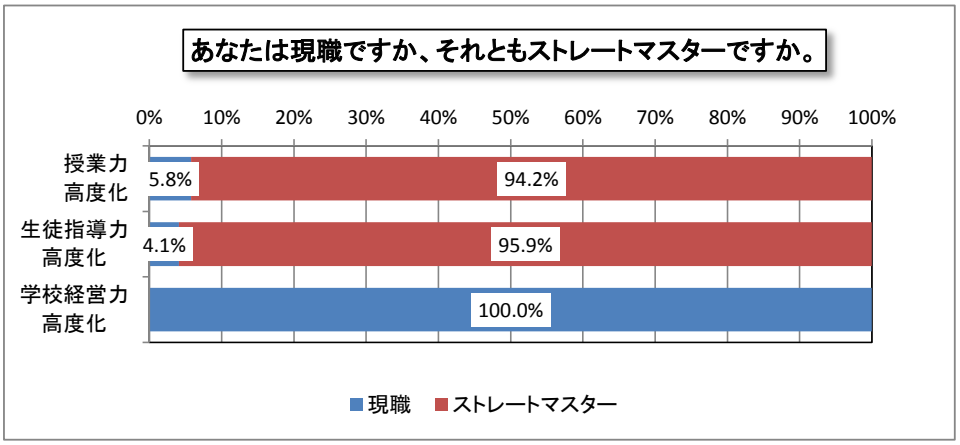


2013年度連合教職実践研究科アンケート（コース別）

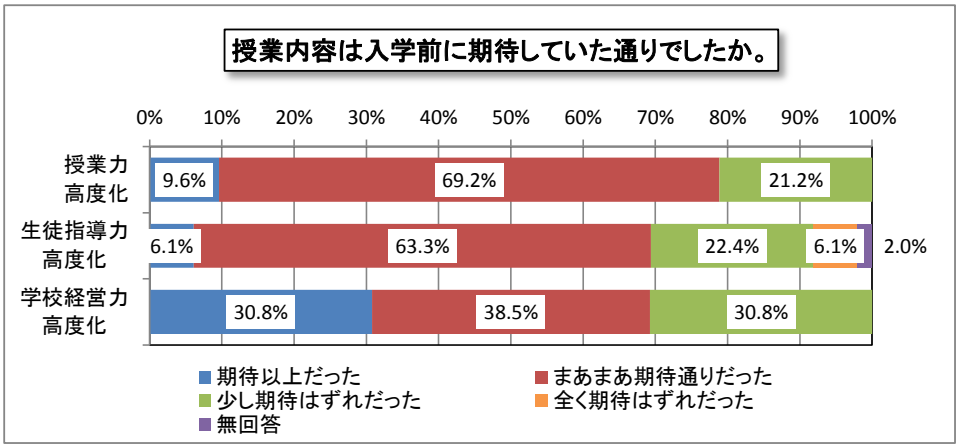
(1) あなたの所属はどのコースですか。



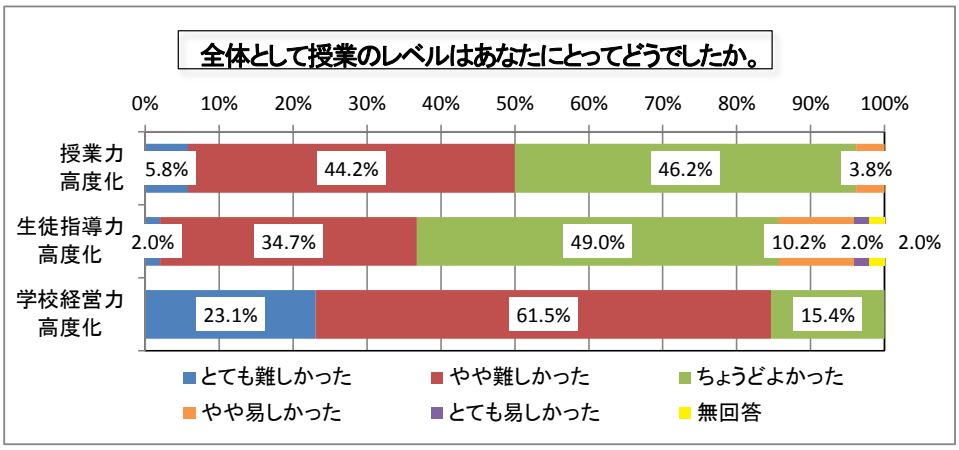
(2) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



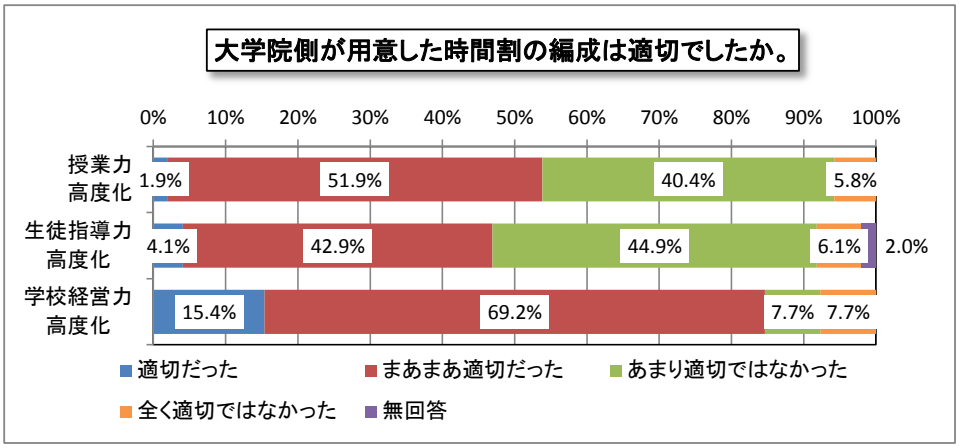
(3) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



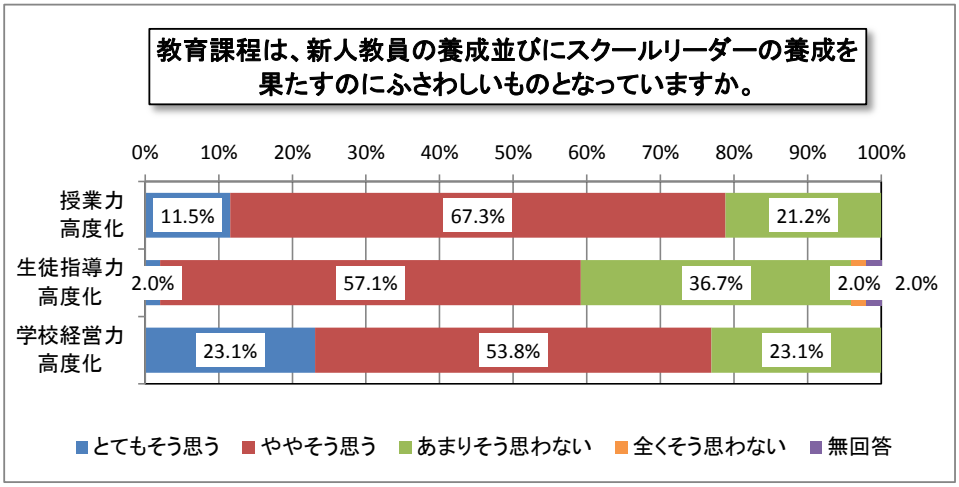
(4) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



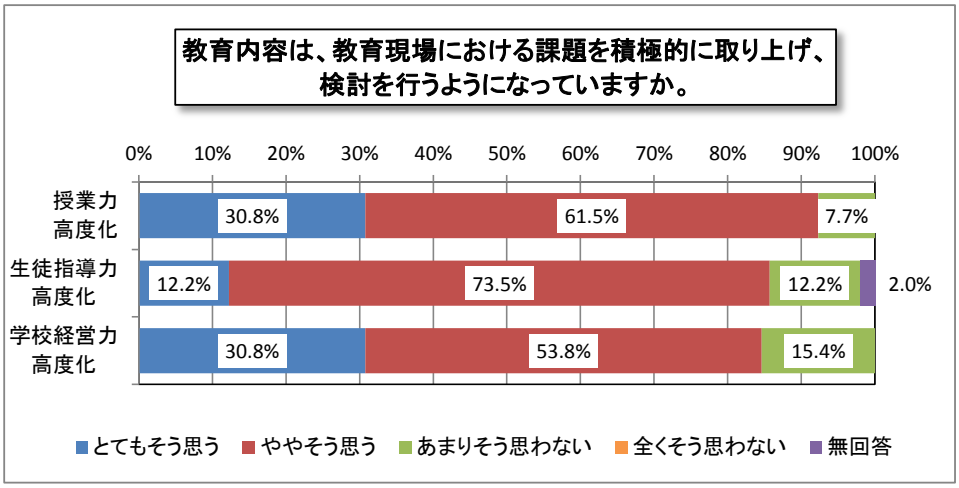
(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



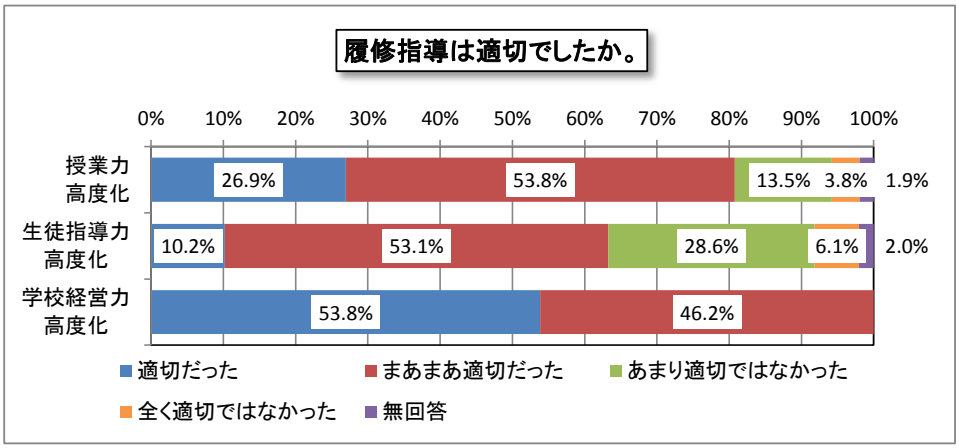
(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



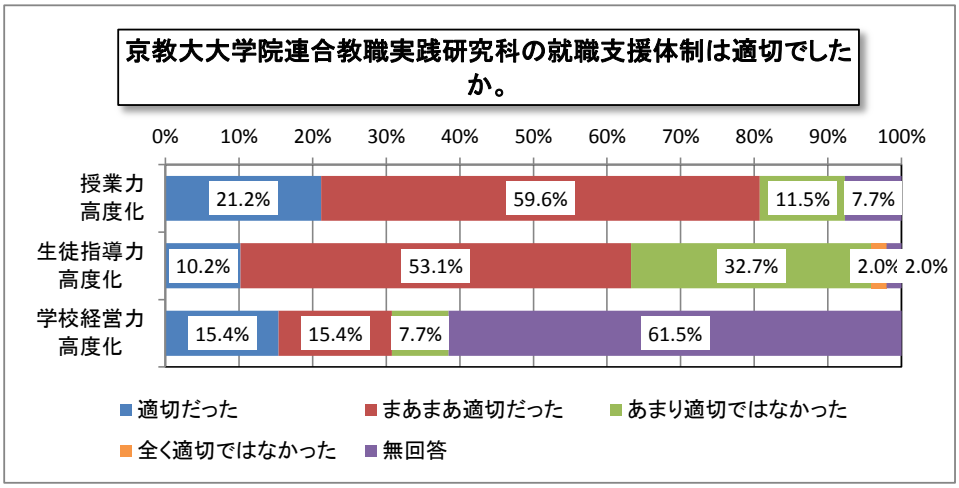
(7) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



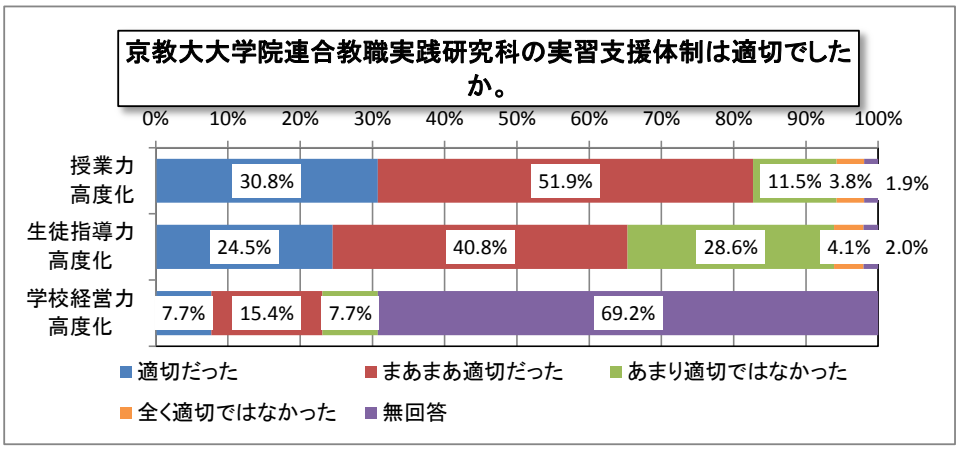
(8) 履修指導は適切でしたか。



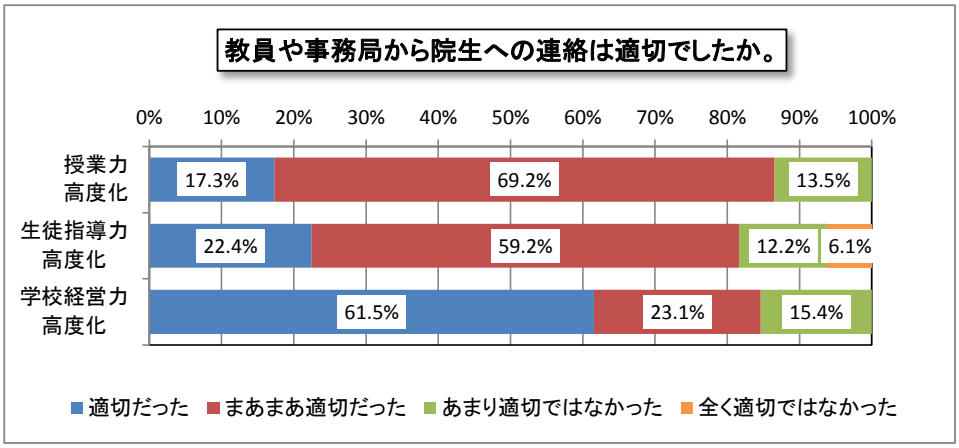
(9) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。



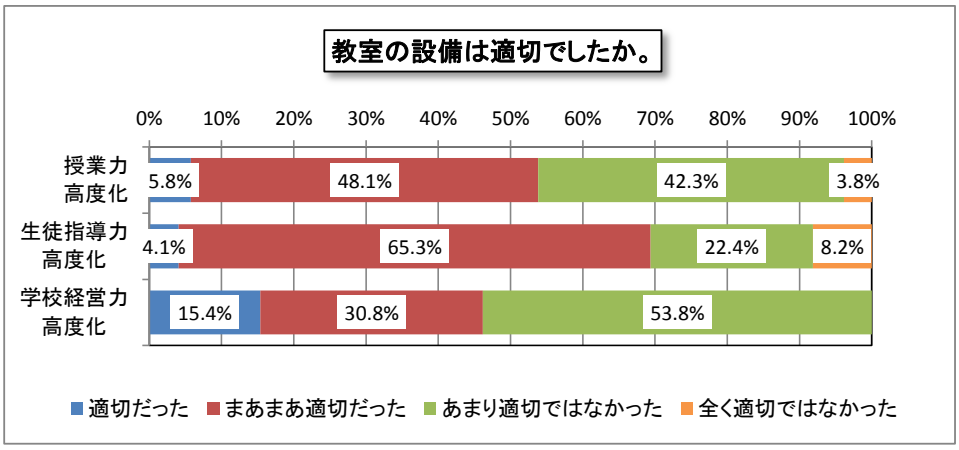
(10) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。



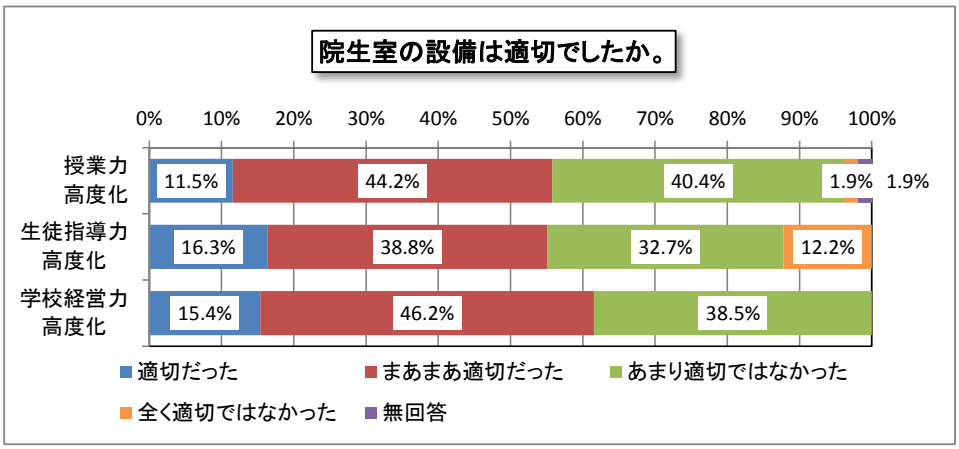
(11) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



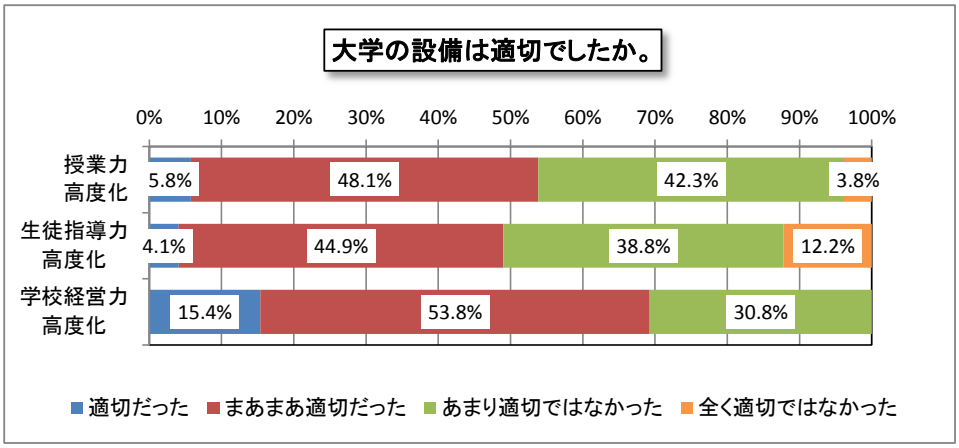
(12)-1 教室の設備は適切でしたか。



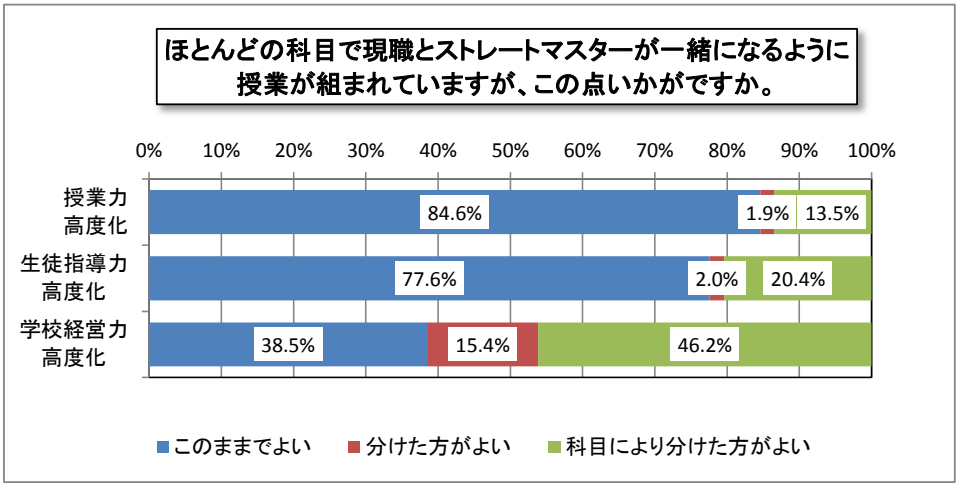
(12)-2 院生室の設備は適切でしたか。



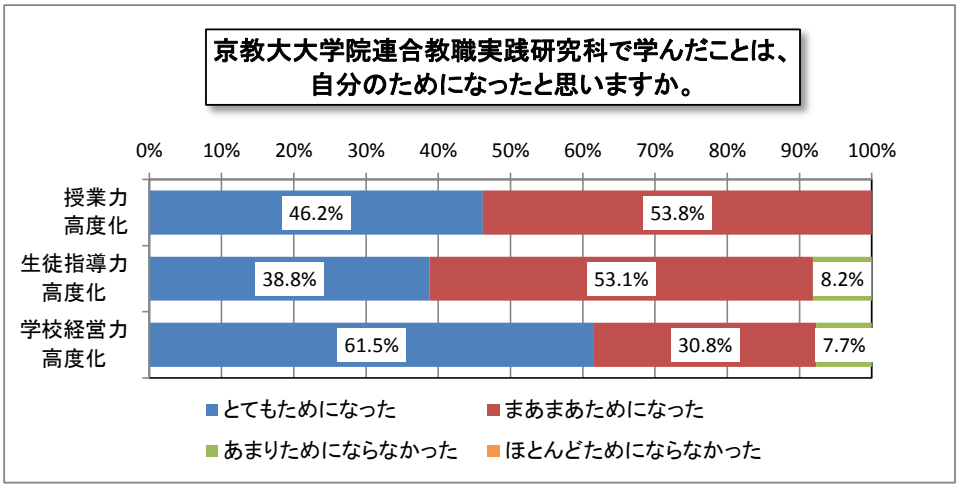
(12)-3 大学の設備は適切でしたか。



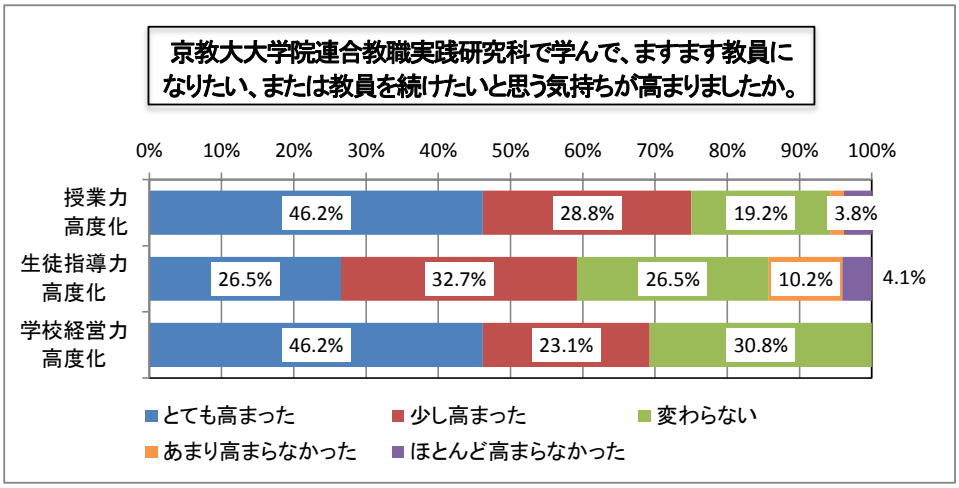
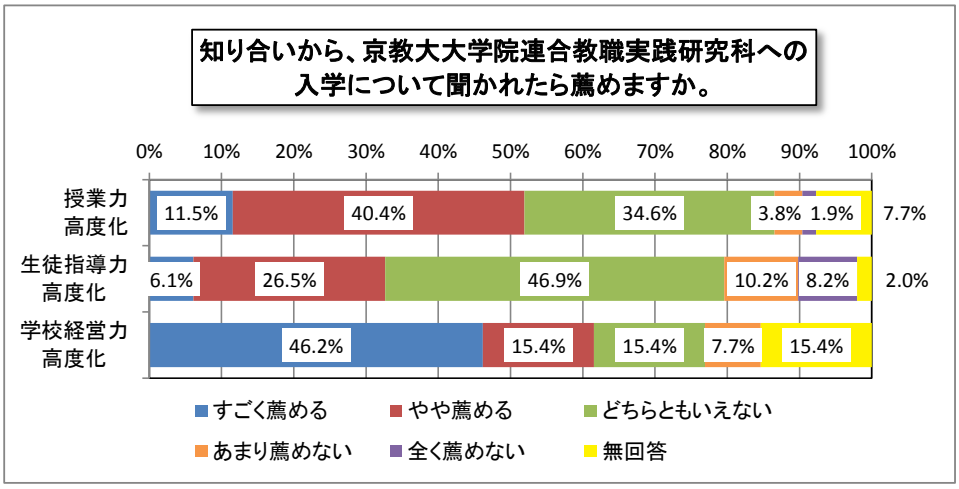
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科では、ほとんどの科目で現職とストレートマスターが一緒になるように授業が組まれていますが、この点いかがですか。



(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(15) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



(16) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。